

千葉大学高大連携支援室

TEL : 043-290-3526

FAX : 043-290-3962

E-mail : koudairenkei@office.chiba-u.jp

URL: <https://www.cfs.chiba-u.jp/koudai-renkei/index.html>

-
- 【1】 令和2年度の高校生理学研究発表会の通常開催中止，オンライン発表会を検討中
 - 【2】 物理チャレンジ講習会「君も物理チャレンジを！！」オンラインで実施
 - 【3】 物理第1チャレンジ理論問題コンテストもオンライン試験に
 - 【4】 課題研究指導の事例集～課題研究指導の進め方とそのヒント～の紹介
-

- 【1】 令和2年度の高校生理学研究発表会の通常開催は中止，オンライン発表会を検討中

令和2年9月26日(土)に開催予定の千葉大学主催高校生理学研究発表会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、通常開催を中止することに決まりました。

高校生理学研究発表会は、理科、数学、情報の研究を対象としたポスター形式の発表会で、優れた発表には千葉大学長賞をはじめとする特別賞や多くの優秀賞が贈られます。また、全ての発表に対して審査委員から送られるコメントは、研究を継続する上で参考となると好評を得ています。回を重ねるごとに発表件数は増加し、昨年度は応募件数385件、発表者総数878名、見学者を含めると1358名という規模に発展しています。

新型コロナウイルス感染者数は5月になってから減少傾向にありますが、未だ終息には至らず、第2波、第3波の感染拡大のおそれも心配されています。千葉大学では、9月末までは、高校生が集うオープンキャンパスや入試広報活動などのイベント中止が決まっています。このような状況から、本年度の通常開催での発表会は中止することとなりました。

しかしながら、いろいろな発表会が中止となる中、高校生に研究発表する場を提供したいという思いから、現在、オンライン形式の発表会の可能性について検討しています。開催時期は今年の10月～12月の間を考えていますが、高校・大学の行事予定、研究活動の進捗、審査委員の確保、申込数の予測、開催方法など、開催するには多くの課題をクリアする必要があります。今後これらの課題について調査・検討し、開催の可否を判断する予定です。開催の可否が決定しましたら早期にお知らせします。

- 【2】 物理チャレンジ講習会「君も物理チャレンジを！！」オンラインで実施

この講習会は、「全国物理コンテスト物理チャレンジ！」を応援するもので、例年、第1チ

チャレンジ理論問題（過去問）を使った授業と、過去に第2チャレンジで使われた装置を使用した実験及びレポートの書き方について指導を行っています。

今年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で全国の学校が臨時休校をしていることから、高等学校へのチラシ等による直接の案内ができず、募集案内はこの高大連携ニュースと千葉大学高大連携支援室のWEBサイトへの掲載だけになりました。それでも3月16日の募集開始と同時に、千葉県、東京都、遠くは青森県や静岡県の中・高校生からの応募がありました。

しかし、4月に入っても感染拡大は収まらず、室内での対面式の講習会は、密閉・密集・密接が避けられそうもないため、今年はインターネットを利用したオンライン講習会に切り替えて再募集をしました。短期の募集期間にもかかわらず、10名の中・高校生が応募してくれました。オンライン講習会は、物理第1チャレンジの過去問の解説と実験レポートの書き方を中心に、4月26日（日）、5月3日（日）、5月10日（日）、6月7日（日）に行われています。

【3】 物理第1チャレンジ理論問題コンテストがオンライン試験に

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、今年度は、物理第1チャレンジ理論問題コンテストが全国統一して自宅でのオンライン試験に変更になりました。実施日は7月12日（日）当初の予定通り実施されます。実験課題レポートの提出締切も6月26日（金）まで延長され、PDFファイルによる提出が推奨されています。第2チャレンジ（全国大会）も実施会場や実施方法に変更があります。詳細は、次のWebサイトをご覧ください。

全国物理コンテスト物理チャレンジ！ URL:<http://www.jpho.jp/>

【4】 課題研究指導の事例集 ～課題研究指導の進め方とそのヒント～ の紹介

この度、千葉サイエンススクールネット指導研究会から、「課題研究指導の事例集 ～課題研究指導の進め方とそのヒント～」が刊行されました。この事例集の刊行の趣旨を、事例集の冒頭の趣旨から抜粋して下に記します。

課題研究指導事例集の趣旨（事例集から抜粋）

本事例集は、千葉サイエンススクールネット指導研究会(SS ネット指導研究会)の活動の一環として作成したものです。指導研究会では、大学等と連携しながら理数系の課題研究の指導方法の研究を行い、新しい時代にふさわしい高大接続に寄与していくことを目指しています。

事例集を作成したきっかけは、昨年度指導研究会で実施した「課題研究の指導にあたる教員の意識調査」です(調査結果は本冊子の後半に掲載)。このアンケート調査の主な回答者は

授業で理数系の研究指導を行っている先生方でしたが、大半の先生方が「結果よりも探究過程が大事である」と考えていることがわかったと同時に、次の事柄も明らかになりました。

- ・研究指導に携わる教員の多くが課題研究指導は難しいと考えている
- ・研究指導に意欲的な教員は指導が困難と考えつつも熱心に指導し生徒の成長を感じている
- ・課題研究指導に意欲的な教員ほど課題研究指導から得るものが多いと考えている

これらの結果を見て指導研究会では、「(主に授業での)課題研究指導の感覚や勘所を掴むことができる事例集」「研究指導の喜びや苦勞が先生方に伝わる事例集」の作成に取り組むことになりました。目標は、研究指導を行う先生方(特に指導経験が少ない先生方)が指導の難しさを克服する際の一助(ヒント)となることと、先生方に「課題研究指導から得るものは多い」と感じてもらうことです。

以下略-----

この事例集は、SSHや理数科のある学校には配布されるそうですが、他の学校でこの事例集をご希望の場合は、千葉サイエンススクールネット指導研究会まで、お早めにお問い合わせください。

連絡先：千葉サイエンススクールネット指導研究会

担当：太田和広、電話：047-422-2188 (千葉県立船橋高等学校)

【編集後記】

新型コロナウイルスの感染拡大の影響が私たちの生活に影響を及ぼし始めて3ヶ月、未だに感染は終息に至っていません。しばらくは感染をしないよう対策を講じながら、ワクチンや治療薬が出来るのを待つしかないとも言われています。SARS, MARS, 鳥インフルエンザなど、この20年足らずの間にいくつもの新型感染症が発生し感染拡大しています。グローバル化の進展から感染の規模は著しく拡大し、伝染速度も急速です。今回の新型コロナウイルスが終息した後も、新たな感染症が発生拡大することは想像に難くありません。ウイルス感染に対応した新しい生活様式の早期確立と変容への順応は避けられないものとなっています。

人との対面が制限される中、クローズアップされているのがオンライン化です。昨年、教員生活の定年を迎えた私には関係ないものと思っていたのですが、今、にわかにはその必要度が高まっています。在宅勤務でのオンライン会議や、「君も物理チャレンジを!!」も自宅から参加しています。TeamsやZoomも初めて使用しました。変容への順応には、意識改革は然る事ながら勉強も必要なのだと痛感しています。(佐)